



八王子盲学校だより



令和7年10月発行 第6号
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

充実の2学期 折り返しの2学期

副校長 落合 隆一

2学期が始まり、学校にも活気が戻ってきました。幼児・児童・生徒の元気な声や笑顔が校内に広がり、私たち教職員にとっても安心と喜びを感じる、心温まるスタートとなりました。

2学期は、年間を通して特に行事が多く、日々の生活に変化が生まれる時期です。そうした中でも、学習面では腰を据えてじっくりと取り組むことができる貴重な期間でもあります。新しい単元の学びに挑戦するだけでなく、これまでに学んできた内容を振り返り、定着を図ることも大切です。特に、情報の入出力に時間がかかりやすい視覚障害教育においては、学習の積み重ねが成果につながるまでに時間を要することもあります。そのため、学校での学びと家庭学習との連携が、より一層重要になってきます。ご家庭のご理解とご協力をいただきながら、一人ひとりに寄り添った指導を進めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

また、2学期は年度の折り返し地点でもあり、これまでの歩みを振り返るとともに、これからの半年間をどう過ごすかを考える節目の時期でもあります。卒業学年においては進路が確定していく中、卒業後に向けた学びが求められますし、小学部1年生も、「2年生になったら、、、」と将来の自分に目を向ける機会がやってきます。そこで重要になるのが、「キャリア教育」の視点です。キャリア教育は、単なる進路指導にとどまらず、自分の生き方や価値観を見つめ、将来に向けて主体的に考え、行動する力を育む教育です。

本校では、小学部段階からキャリア教育に取り組んでおり、キャリアパスポートを活用して、日々の学習や活動の成果を記録・蓄積しています。これにより、子どもたちは自分の成長や変化に気づき、自己理解を深めることができます。学年が進むにつれて、「なりたい自分」のイメージはより具体的になり、卒業後の生活や進路選択にも直結していきます。そのためには、今の自分を客観的に捉え、目標を明確にし、それを実現するための行動に移していく力が必要です。2学期の時間を大切に使いながら、子どもたちが自分自身と向き合い、未来への一歩を踏み出せるよう、学校全体で支援してまいります。引き続き、御理解、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

トピック 仮校舎初の「六光祭」

令和7年11月1日(土)9時15分から14時40分まで六光祭(文化祭)を行います。仮校舎で行う初の文化祭となり、校舎の御紹介を含め広く地域の皆様にも御参観いただきたいと思います。各団体のステージ発表、作品展示、催し物等を予定しています。ぜひ、お楽しみください。

授業力についての取り組み

研究部主幹 菅井 みちる

八王子盲学校では視覚障害教育を初めて経験される初任者や転任者の先生に向けて、『校内新任研修』を年39回実施しています。内容としては学校運営に関するもの、点字、自立活動的な内容、重複障害に関するものと多岐にわたっています。全ての先生方に受講していただけるよう、水曜日の6時間目に設定し、定着を図っています。点字講習は毎回宿題が課され、点字盤で書いて提出し、1年間を通して取り組んでいます。

また全ての教員に対して、『年1回研究授業』を実施し、互いに授業を見あう取組を行っています。同じ学部だけではなく他学部の教員にも広く公開し、教科の専門性も高められるように配慮しています。授業を参観した後は、授業参観シートにアドバイスを書き込んで、授業者の理解を深められるように工夫しています。

さらに任意ではありますが、『関東甲信越地区視覚障害教育研究会』『全国日本盲学校教育研究会』（以下関視研、全日盲研と記載）にも加盟し、指導の工夫や新しい取組などの情報収集を行っています。今年度、全日盲研は東京都の盲学校が主管校で、全国研究会が参宮橋にある国立オリンピック記念青少年総合センターで実施され、全国からたくさんの教員が参加しました。少人数化による授業の工夫や外部への支援、教科の専門性について活発な意見交換がなされました。

また関視研も八王子盲学校が主管校で、小学部会、国語部会、英語部会、理療科部会、自立活動部会、特別支援部会などが実施され、活発な協議がなされました。小学部会では八王子盲学校の体育の取組が評価され、全日盲研での発表に選出されました。来年度の全日盲福島大会に発表予定です。このように授業力の向上に向けて、様々に取り組んでいます。

防災教育について

生活保健部主幹 二方 宏和

先日、断水によって給食の提供ができなくなった際は、全校の児童・生徒ならびに保護者の皆様には御理解御協力を賜り心より感謝申し上げます。当日は、給食の代わりに災害備蓄食料を提供させていただいたわけですが、この災害備蓄食料は文字通り本来災害時に活用するものです。今回は災害ではありませんでしたが、我々教職員は校長の指示のもと臨時の会議をもち、企画室や栄養士と相談の上安全なお昼ご飯を提供するべく、すみやかにそして災害時に準ずる緊張感をもってことにあたりました。児童・生徒の皆さんは、今回の状況を肌で感じ、本当の意味での防災教育になったのではないかと思います。

防災に対する備えは「やりすぎということはない」とよく言われます。まさに備えあって憂いなしです。防災教育の充実のため、本校でも月に一回の避難訓練を行っています。9月には非常災害時下校訓練を実施し保護者の皆様にも御協力をいただきました。10月には総合防災訓練ならびに消防署等の地域関係機関や本校保護者の代表の方を迎えた防災教育推進委員会を実施いたします。防災教育推進委員会では、本校の幼児・児童・生徒を災害からどう守るかという大きな課題について、校内はもとより地域や保護者の方々からご意見を頂いて、想定の内外に対する災害の備えを行います。

昨今、自然のありようの変化が言われています。気温の上昇による熱中症、いつどこで起こるかわからない落雷、突風や竜巻などの被害についても耳にする機会が多くなってきました。「何が起こるかわからない」「備えはいくらしてもし過ぎることはない」という意識のもと、定例の避難訓練だけでなく、様々な災害についての指導を日常的に行っていくことが大切で、そのためには防災についての情報を常に更新する必要があります。御家庭におきましても防災について話題にさせていただきますようお願いいたします。御家庭と学校で連携し、幼児・児童・生徒の命を守る防災教育を行っていきましょう。